

	評価の観点	1学期	2学期	3学期
V 道徳教育	(1) 「道徳の時間」における指導方法の工夫改善や評価の工夫に努めることができた。	3.5	3.3	
	(2) 児童の実態に応じ、教科書以外の教材の活用に努めることができた。(志のこころ、郷土の先人、新聞、日記等)	3.0	▲2.7	
	(3) 日常における具体的な場面を通した道徳的実践力の育成に努めることができた。	3.0	3.3	
VI 特別活動	(1) 学校行事の目標、当該行事のねらいを達成できるように、前年度の反省を生かした企画・運営に努めることができた。	3.0	3.3	
	(2) 学級活動では、話し合いを通じた合意形成による課題の解決力を育成することができた。	3.5	3.3	
	(3) クラブ活動では、計画・運営を通して自主性や協力心を育成することができた。	3.5	3.8	
VII 人権教育	(1) お互いを認め大切にする心や、差別に気付き適切に対応する力の育成に努めることができた。	3.3	3.6	
	(2) 言葉づかい、掲示物の内容を確認し、人権尊重の視点に立った環境づくりに努めることができた。	3.3	3.8	
	(3) 校内研修や校外での研修の報告を通して、自身の人権尊重の意識の高揚を図ることができた。	3.0	3.6	
VIII 特別支援教育	(1) 特別な配慮を要する子どもの「個別の支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、全職員で共通理解・対応を進めることができた。	3.3	3.4	
	(2) ユニバーサルデザインを意識した、教室設営に努めることができた。	3.0	3.5	
	(3) 校内研修や校内支援委員会、校外の研修会を通して、特別支援教育への理解を深めることができた。	3.0	3.8	
IX 環境教育	(1) 青少年赤十字活動やボランティア活動を推進し、環境の保持・保全の意識と実践力を育てることができた。(SDGs)	3.0	3.3	
	(2) 全教育活動を通して、地域や地球の環境の現状について正しく理解させることができた。	3.0	3.4	
X 家庭・地域との連携	(1) 学級PTAや家庭教育学級、学校保健委員会では、子どもの健全育成に向けて情報交換を行ったり、お互いの悩みを相談し合ったりする場を設定することができた。	3.0	3.8	
	(2) 授業参観は、教科・内容等を工夫し、保護者等が学校の学びを理解する手助けとなるように実施することができた。	3.0	3.7	
	(3) 学校の各たより、ホームページ等は、定期的に発行・更新され、保護者や地域への広報に役立っている。	3.7	4.0	
	(4) 新聞への投稿、各作品展への応募等を計画的に進めることができた。	3.0	3.3	
XI 研修	(1) 校内研修の内容は、研修の目的・視点がはっきり示され、自己の資質向上につなげることができた。	3.7	3.4	
	(2) 短期研修や研究公開等に積極的に参加し、自己の資質向上に努めることができた。	▲2.7	3.6	
	(3) 個人テーマの達成に向け、実践的な取組を実施することができた。	3.0	3.0	
XII 服務・業務改善	(1) 服務違反を起こさないように、緊張感を持って生活することができた。	3.6	3.4	
	(2) 諸ハラスメントを起こさない、起こさせない職場づくりを意識することができた。	3.6	3.6	
	(3) 時間外勤務時間月45時間以内を達成することができた。	3.4	3.8	
	(4) 金曜日の定時退庁を守ることができた。	3.2	3.6	
	(5) 業務改善の意識をもって、業務の効率化やデータの整理・保存に努めることができた。	3.6	3.8	
	(6) 一人の職員に負担が行き過ぎないように、声をかけたり、作業を手伝ったりするように心がけた。	3.6	3.6	
	(7) 適正な会計事務を行うことができた。	4.0	4.0	